

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日（課長等）	30年 3月 31日
2次評価日（部長等）	30年 3月 31日

施策評価表

1 施策の概要

施策名	多文化共生の推進	コード	12-1
この施策の主な内容（細施策）	(1) 国際交流の推進 (2) 国際理解の醸成		
第4次総合計画におけるこの施策の目的	市民の国際理解の醸成と多文化共生の社会づくりを推進する		
担当部課	部 企画政策部	課等 企画課	作成者 岡本 典幸

●施策の実施内容（D0）

2 施策指標の達成状況

* 第4次総合計画における目標指標の達成状況（最終年度：30年度）

施策指標名	単位	27年度	28年度	29年度			30年度	31年度
		実績値	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値
① 日本語講座の受講者数	人	149	86	196	282	143.9%	200	
指標説明	(公財)おかや文化振興事業団国際交流センターが行う、日本語講座の延べ受講者数を増やす。							
② 国際交流ボランティア登録者数	人	117	118	142	118	83.1%	145	
指標説明	国際交流活動に関するボランティア登録者の実人員を増やす。							
③						-		
指標説明								

3 施策全体にかかる合計コストの推移

* 項目6より「直接事業費」「人件費」の合計を自動表示

単位：千円

	27年度	28年度	29年度	30年度（予算）
直接事業費	17,110	12,340	13,093	15,016
人件費	3,200	3,200	3,200	3,200
合計コスト	20,310	15,540	16,293	18,216

●施策の評価（CHECK）

4 施策の現状評価

* 29年度に施策の目的がどこまで達成できたか、施策の進行状況に関する順調／不調の判断

・国際交流センターと共同して、国際理解や多文化共生の推進を図るため、日本語講座などを開催することで在住外国人の支援をするとともに、国際交流員を引き続き設置し、保育園や小中学校をはじめ市民への国際理解への醸成に努めた。
 ・マウントプレザント市との交流では、研修のため来日していたセントラル・ミシガン大学教授等7名、学生16名の表敬訪問を受け入れたほか、姉妹都市生活体験として、本市から高校生6名、引率者1名を派遣するなど、両市の市民レベルでの交流を深めた。

* 岡谷市の現状のうち、この施策にとって強み／弱みとなる要因

岡谷市の強み	岡谷文化振興事業団国際交流センターの存在。
岡谷市の弱み	特になし。

5 今後の外部環境の変化

* 30年度以降に予測される社会・経済などの環境変化のうち、この施策に具体的に影響する要因

有利に働くもの	2020年の東京オリンピック開催に向けて、訪日外国人旅行者が年々増加しているため、本市においても、さまざまな国の人々と接する機会が増えることが見込まれる。
不利に働くもの	宿泊施設や飲食店などにおいて、外国人旅行者の受入体制が整っていない。

●改善の内容 (ACTION) / 次年度の計画 (PLAN)

6 平成31年度 施策を構成する事務事業の方向性

●基本的な考え方

* 優先して実施する分野＝優先度がA・Bの事業：拡大する事業や新規事業の内容、優先的に実施する理由
 * 見直しを行う分野＝優先度がC・Dの事業：見直しの内容、見直しや廃止をする理由

優先して実施する分野	在住外国人の人数は横ばいで推移しているため、引き続きともに住みやすいまちづくりを進める必要があることから、引き続き国際交流センターと連携し、市民の国際理解の醸成を図る。
見直しを行う分野	国際交流ボランティアを活用した事業展開を図る必要がある。

●31年度の優先度

* 方向性が「継続」の事業についてA～Cを、「新規事業」の事業についてAをランク付け。方向性が廃止、完了、統合となっている場合は「-」を付する。 直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	成果指標		直接事業費	人件費	妥当性	方向性	優先度	
					指標名	単位	27年度	27年度				27年度
							28年度	28年度				28年度
							29年度	29年度				29年度
							30年度	30年度				30年度
1	一般	なし	国際交流事業	国際理解のための指導、教育事業参加者数	人	2,073	17,110	3,200	標準	継続して実施	B：現状維持	
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												